

事例1

< 事例概要 >

肺動脈損傷

- ① 70 歳代、女性、身長150 cm 台。高度大動脈弁狭窄症、心房細動の患者。大動脈弁置換術、肺静脈隔離術、左心耳閉鎖術を施行。手術3 日前より抗血栓薬を休薬。
- ② 右内頸静脈より肺動脈カテーテルを挿入し、肺動脈楔入圧測定後、48 cm で肺動脈内に留置。
- ③ 人工心肺開始後、肺動脈カテーテルを2 ～ 3 cm 引き抜いた。肺静脈隔離術および左心耳閉鎖術の際、術野確保のため肺動脈を含めた心臓全体を右方へ圧排する操作を行った。
- ④ 人工心肺離脱中、気管チューブ内に出血を認めたため、対側肺への流入を防ぐために気管支ブロッカーの挿入を試みたが出血が多く困難であった。プロタミン硫酸塩を投与し、気管支ブロッカーを右気管支に挿入できたが、出血が続き右肺中下葉切除を行った。肺出血による循環不全などから心筋壁の浮腫、心膜炎、縦隔炎に至り、手術から約1 か月後に死亡。
- ⑤ 死因は、右中葉肺門部の肺動脈の断裂（約2 mm）に伴う肺出血を契機とした多臓器不全。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。